

始めてみよう！！りんどう栽培（簡易版）

りんどうは夏秋期に清涼感を感じさせる花として需要が高く、また、仏花としてお盆、秋のお彼岸に特に需要があります。宿根草であり一度定植すると4～5年栽培できます。品種の組み合わせで長期間にわたって出荷でき、労力も比較的少ない品目です。

今回は定植から切り花までのりんどうの基本的な栽培管理について栽培スケジュールと栽培のポイントについて簡単に紹介します。

1. 定植初年の管理

まずは定植1年目の栽培スケジュールです。定植1年目は株養成期間で、収穫ができません。2年目以降に良い切り花ができるかどうかは1年目の管理にかかっています



月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
定植1年目	→ 定植準備		定植	← 遮光						基肥刈り込み	← 越冬	
作業のポイント！	<ul style="list-style-type: none"> 定植前年の秋にpH5.0～5.5に矯正する 畝幅140～150cm（通路50cm）、高さ20～30cmの高畝とする 		<ul style="list-style-type: none"> 定植適期は本葉3対展開以降 栽植密度は条間45cm、株間15cmの2条植え 	<ul style="list-style-type: none"> 30～50%遮光資材やべた掛け用不織布でトンネル遮光 定植直後から8月下旬まで 						<ul style="list-style-type: none"> 自然に茎葉が枯れたら茎を刈り取る ビニルマルチの中央部分を切り取って施肥穴を設置し、12月末までに基肥を施す 株元が大きく露出していたりする場合は凍害を防ぐために堆肥等で覆う 		

2. 定植2年目以降の管理

続いて定植2年目以降の栽培スケジュールです。2年目以降はいよいよ収穫が始まります。きれいなりんどうの収穫を目指して丁寧な管理を心掛けましょう。



月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	
定植2年目以降		間引き	← 花肥 →		← 収穫 →					基肥 刈り込み	← 越冬 →		
作業のポイント！		<ul style="list-style-type: none"> ・草丈が30cm頃までに弱小茎を中心に折り取る ・最終的には、1株8本程度に間引く 	<ul style="list-style-type: none"> ・開花の90日前に花肥を行う 		<ul style="list-style-type: none"> ・収穫適期は頂花房の大部分の蕾が着色したとき ・刃物は使わずに折り取る ・次年度の株養成のために切り下株の茎をできるだけ長く残す 						<ul style="list-style-type: none"> ・次年度の株養成のため、寒さで枯れるまで健全葉を残す。 ・その他の作業は1年目と同様 		

今回はりんどうの栽培の流れについて重要な作業を中心に簡単に紹介しました。りんどうの栽培には今回紹介したもの以外にも様々なポイントがあります。より詳しいことを知りたい方は「始めてみよう！！りんどう栽培（詳細版）」をご覧ください。

